

広報による相互利益実現のための戦略と取組 ～職員有志による広報ワーキングチームの挑戦～

北海道森林管理局 網走南部森林管理署 森林整備官 渡邊 大地

1 課題を取り上げた背景

広報活動は、発信者と受信者での情報交換の繰返しにより、双方の理解と協力が得られる「相互利益」が実現できる取組です。北海道森林管理局（以下：北海道局）では「相互利益の実現」を最終目標に、「効果的かつ戦略的な広報」を展開するため、令和4年度より有志による「広報ワーキングチーム」（以下：広報WT）を設立しました。

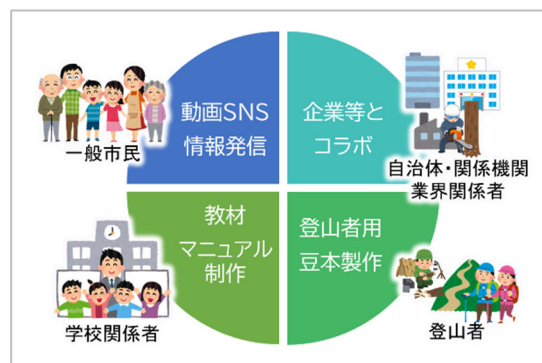
広報WTでは既存の媒体を活かしつつ、柔軟な発想や職員の特技を取り入れて、広報活動の活性化と積極的な情報発信を行っています。

2 取組の経過

具体的なターゲットを「一般市民」、「企業および関係機関」、「学校関係者」、「登山者」の4つに分け、戦略を展開しています（図－1）。

「登山者」をターゲットにした取組では、「登山中や下山後も読んでもらえる魅力的なアイテム」の作成を行いました。

これまで北海道局では、国有林の登山者に注意喚起と組織PRを目的としたパンフレットを配布していましたが、持ち歩くには大きく、紙製はすぐ破れ



（図－1：広報WT 4つのターゲットと戦略）

るため、あまり読んでもらえずそのまま捨てられてしまう、という問題を抱えていました。

そこで耐久性と携帯性を備えたキーホルダー型の「豆本」を採用しました。日本人に親しまれている「鳥獣戯画」を題材に、読んで楽しい、見て楽しい、話題性のある発行物を目指しました（図－2）。

また、警察や環境省等の関係機関とも連携し、共同ページの作成やPRを実施しました。



（図－2：作成した豆本）

3 実行結果

作成した豆本は山開きや地域のイベント等で配布したところ、受け取った方々からは好評と共に、「Webで登山届を出せるとは知らなかった。」、「勉強になった。」といった感想がWebフォームに寄せられ、読んでもらえるアイテムとして確かな手応えを得ました。

また関係機関と連携してPR等を行ったことで、北海道局単体での取組と比べて登山者への訴求力が格段に増し、各機関にとってもPR手段の拡大へと繋がりを、相互利益が実現できる取組となりました。

4 考察

今回、Webフォーム等を活用したフィードバックにより、企画の評価や新たな課題発見に繋がりました。今後もWebフォーム等を適切に活用し、戦略の評価と分析を行い、各取組をブラッシュアップしていくとともに、

より効果的かつ戦略的な広報、そして相互利益の実現に向けて、一過性で終わらせない仕組みとノウハウの蓄積が引き続き必要となります。